

埋立終了後も、環境保全対策は続きます。

浸出水中の汚濁物質の濃度が国の定める基準以下となり、処分場外の環境に影響がない状態になることを安定化といい、埋立が終了しても処分場が安定化するまでは浸出水の処理を続ける必要があります。

埋立地内の重金属やダイオキシンは、一部は浸出水として処理されますが、残りは安定な形に変化したり、土の粒子に吸着されて埋立地内に留まります。ただし、これらは安定した状態にあるので、処分場の外に流れ出して周辺環境に影響を及ぼすことはありません。

一般の土壌中にも重金属やダイオキシンは含まれておりますが、それらが周辺環境に影響を与えることはありません。同様に、安定化した処分場も周辺環境に影響を及ぼすことはありません。

処分場が安定化するまでは、浸出水の処理を続けるとともに、モニタリング調査も実施して、周辺環境への影響がないことを確認していきます。



猛禽類のモニタリング調査を行っています。

県では環境に配慮した建設計画検討の参考とするため、2月から8月の予定で、最終処分場建設予定地及びその周辺において猛禽類のモニタリング調査を実施します。

お問い合わせ先

- 栃木県 環境森林部 馬頭処分場整備室 TEL.028-623-3227 FAX.028-623-3182
e-mail : bato@pref.tochigi.lg.jp
那珂川分室 TEL.0287-92-1411 FAX.0287-92-1416
- 那珂川町 環境整備対策室 TEL.0287-92-1110

発行

- 栃木県 環境森林部 馬頭処分場整備室 〒320-8501 宇都宮市埴田1-1-20 TEL.028-623-3227
【栃木県ホームページ】 <http://www.pref.tochigi.lg.jp/>
【 ⇒ 環境 ⇒ 廃棄物・リサイクル対策 ⇒ 馬頭最終処分場 】
- 財団法人 栃木県環境保全公社 〒320-0043 宇都宮市桜2-2-28 TEL.028-622-7654

(平成21年3月発行)



馬頭最終処分場と周辺環境への 配慮について

今号では、馬頭最終処分場の稼働とあわせて実施する
周辺環境への配慮についてご説明いたします。

馬頭最終処分場では、将来にわたって安全で安心できる施設とするため、様々な環境保全対策を実施します。

搬入車両に覆いを設置

トラックの荷台には必ずシートをかけるなどの対策を行い、廃棄物の飛散や悪臭の発生を防止します。



国の基準を上回る遮水構造の採用

埋立地全体に遮水シートを二重に敷き詰めるほか、幾重にもわたるバックアップ機能を備えた多層の遮水構造を採用し、廃棄物に触れた雨水(浸出水)が埋立地から漏れ出すことを防ぎます。

里山の保全

緩衝緑地帯を含め、周辺の山林を里山として保全し、動植物の生息・生育環境を確保します。(里山保全ゾーン)



里山保全ゾーンイメージ

貴重種の移植

施設ゾーンに生育する貴重種は、里山保全ゾーンに移植します。移植後は、専門家の意見を聴きながら必要な事後調査や管理を行います。



貴重種の移植



貴重種の生育状況の記録

モニタリング調査の実施と結果の公表

河川に放流する処理水は、定期的に水質検査をして、問題がないことを確認します。また、放流先の小口川でも水質検査をして、河川水に影響がないことを確認します。また、モニタリング調査の結果は、すみやかに公表します。



サンプリング



公表

処分場のモニタリング調査結果を見てみよう。

散水と即日覆土の実施

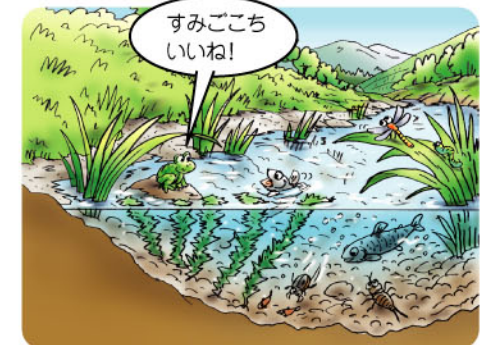
埋め立ての際には水を撒き(散水)、その日のうちに土を覆い被せ、廃棄物が飛散ないようにします。また、風が強い時には埋立作業を中断します。



散水、覆土イメージ

水辺環境の創出

備中沢の保全と親水を目的とし、水辺の動植物に触れ合うことのできる空間を確保します。(水辺空間ゾーン) 付替河川は、川幅を広くしたり、流れに変化をつけることで、水生生物の生息・生育に適した環境とします。



付替河川イメージ

浸出水の高度処理の実施

廃棄物に触れた雨水(浸出水)は、浸出水処理施設で、高度処理を含めた水処理により飲料水レベルまで浄化したうえで、小口川橋下流に放流します。

